

305

日一十月五年四十正大

# 報情外内

號十四百第

<b>目次</b>	
(非禁轉載品)	
<b>支那</b>	<b>比律賓</b>
福建官・兵・匪の苛虐……………一	支那の燈火用石油市場……………元
福建近情彙電……………三	比島に於ける産業……………五
許の援國と陳林の呼應……………五	<b>英領北ボルネオ</b>
廣東政府の財政窮乏……………七	英領北ボルネオ史……………〇
陳炯明失敗の原因と飛躍の現状……………九	バナナ主要産地より米國への輸出表……………(表参照)
兩廣近情彙電……………三	バナナ主要産地より英國への輸出表……………(表参照)
廣門の現状……………五	

課查調房官督總灣臺

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

課税地名	課税者	課税名目	課税額	備	考
南平	均和公司	拉夫捐	每連十角	民政所屬南平縣設立	
同	同	收同號旗	每廠四角	同	
同	南平保衛團	木排捐	每連一角	軍政所屬閩北護軍使設立	
同	同	船務處貼差	同	同	
同	同	護運捐	同	同	
下	同	同	四十三角	同	

支那

福建官兵匪の苛虐

福建省に於ける官廳は昨今益々財政に困難を來たしたる爲め又軍隊は軍費私欲の爲め、種々の課税をなし苛虐を極むる一方、匪は官兵の虐に乘じ奪略強徴日も足らざる有様なり。之が爲め交通は杜絶せられ出貨は滞滞し農産・林産物の如きは、産地に於て却つて下落し需要地に於ては大に騰貴し生産者消費者共に苦痛を感じつゝあり。

今其一例として延平・洪山橋間に於て規定の厘金税の外に苛課せらるゝ諸税左の如し。

情報

バナナ主要産地より米國への輸入表 (数量單位 弗房)

仕出地	一九一三年	一九一九年	一九二〇年	一九二一年	一九二二年
コスタ・リカ (Costa Rica)	3,952,400	4,000,000	5,433,300	3,968,900	3,747,700
グアテマラ (Guatemala)	2,391,300	2,440,000	3,544,500	4,600,000	4,918,000
ホンデュラス (Honduras)	7,965,500	2,359,800	2,488,400	3,153,300	2,484,400
ニカラグア (Nicaragua)	1,211,900	8,979,000	1,328,700	1,933,200	2,033,900
パナマ (Panama)	4,486,000	4,969,000	4,584,900	3,966,000	3,655,800
メキシコ (Mexico)	1,511,500	1,554,000	7,844,500	1,488,000	7,911,800
キューバ (Cuba)	2,227,000	1,554,000	1,270,000	1,744,000	1,048,000
コロムビア (Colombia)	2,227,000	4,099,000	2,227,000	3,553,000	2,000,000
英領ホンデュラス (Br. Honduras)	2,227,000	2,227,000	2,227,000	2,227,000	2,227,000
英領西印度 (主としてジャマカ) (Br. West Indies, chiefly Jamaica)	2,227,000	2,227,000	2,227,000	2,227,000	2,227,000
その他の諸國	2,227,000	2,227,000	2,227,000	2,227,000	2,227,000
合計	25,370,000	25,990,000	25,399,000	25,555,000	25,038,000
總價	1,444,400,000	5,240,500,000	1,900,000,000	1,950,000,000	1,910,000,000

※は六月三十日を以て終る會計年度の數量である。



戦せしとの消息有りといふ。常徳盛軍は復た贛(江西)の廣豊より閩の浦城に抵りたるに、該縣の知事は省城に打電して急を告ぐ。一方許崇智軍は陳炯明軍の後を追うて入閩することに決したるに、陳軍は漳州に在りてその屬邑のもの約一萬餘人あれば、陳と許との間には一戦を免れ難し。各邑の紳商は頻りに電を發して急を告げり。(四月十五日福州電)

林本民の報告と陳炯明一行の氏名 林本民汕頭へ回へり報告して曰はく、陳炯明は永績艦に在り。其の隨員には參謀長張立村・參謀陳君韜・軍需長林拱初・秘書田雨生・副官長施國強等有り。

陳炯明厦門を去る原因 陳炯明は在厦の反對者多きに因り、漳州或は東山に赴かんとす。

許崇智の大隊未だ入閩せず 平和は尙ほ陳炯明の殘部及張毅部の駐紮せるものに係り、許崇智の大隊尙ほ未だ入閩せざるなり。詔安を占領せるものは民軍に係り、新たに許崇智の編制を受けたる張之徳部是れなりといふ。(以上四月十六日厦門電)

張之道詔安知事に補す 詔安を占領せしは福建々國軍張貞部に係り、張は已に張之道を詔安知事に補任せり。(四月十七日福州電)

林知淵來厦の要務 林知淵十八日上海由り厦門に抵り、永福艦及露教員の放釋方につきて妥議中なり。

厦門駐在海軍陸戰隊騒動の原因 厦門駐在の海軍陸戰隊は俸給支拂停止につきて騒動せるに因り、團長林志棠は鼓浪嶼に難を避け、團務は營長周某に因りて維持せりといふ。

孔・高兩部の衝突 孔昭團部と高義部陳清洪とは、十七日泉州南門外陳康にて烟苗稅の争ひに因り開戦せり。又聞く十七日朝より十九日の朝までは戦争尙ほ已まず。十八日孔は同安駐在軍を動員して援助に赴かしめ、高も亦た兵數を増派して陳を幫助せしめたるを以て、泉州安海一帶は均しく戒嚴せり。(以上四月十八・十九日厦門電)

陳炯明上海行の風説 陳炯明は在上海楊樹莊に電を送りて曰はく、請ふ海籌・永績の兩艦を派遣し、彼れを上海まで送られたし。然るに楊氏は婉曲にその請を謝絶したり。或は謂ふ、陳は已に永績に搭乘して上海へ赴けり。又一説に曰はく、陳炯明が上海に赴きしとの傳説頗る盛んなるも、厦門の報知によれば、陳部の衛隊は十八日漳州に赴きたりといへば、陳は十九日漳州へ入ることに決定せり。(四月十八・十九日北京電)

□許の援閩と陳・林の呼應

許崇智の援閩と林・洪部 許崇智進んで潮・梅を占めしより東江の戦事は粗ば收束を見んとする有様なるが、林虎・洪兆麟の所部退いて江西・福建の邊境に處り、兵力尙五萬の多きあり。故



に未來の戰機は依然として茲に伏在し居れるより、許氏は續いて援閩の舉に出でんとするも、其の潮・梅に在るの軍隊は約一萬五千人に過ぎず。實力上分れて閩に入るの餘裕なし。されば興寧・梅縣の屬邑克復せし後頻りに蔣介石と凝議せるに、蔣は之を不可なりとして云く、陳軍の實力は仍ほ林虎に在れば、洪兆麟よりは林虎を防ぐを要すと。然るに許は閩南には張貞・盧興邦・孫本戎の應援あるを以て比較的成效を爲し易しとて、張民達師長を援閩總指揮と爲さん考なりしも、張が覆船の難に罹りしより該問題は一時沙汰止となれり。

陳・林の呼應 陳軍の林・洪兩部が江西・福建の邊境に逃竄せしより、駐閩海軍を利用して許軍の運輸艦を劫奪したれば、許總司令頻りに北京及福建當局と交渉せるも仍ほ效果なし。目下北洋海軍艦は汕頭港を離ると雖も尙東山・汕頭海面の間に出没し、海邊の交通爲に大に妨礙せらる。是に於て許氏は特に淡水に行營を設け、一方省城當局に打電し、軍實は以後陸運によることゝしたり。按ずるに省より汕頭に至るまで路程六百餘支里なれば途中に障害の有無は定むべからず。且陳氏は既に周蔭人・楊樹莊・張毅と新に三角同盟を結び、周・楊・張より陳軍を協助して潮汕に反攻し、陳軍は三人を協助して閩南を統一せしむるの交換條件を相談済にて、周氏は子彈百箱を送り來り、海軍々艦二艘に托して漳州に運び、同時に中閩の田室琴・李鳳祥の兩混成旅を召集して閩南に派遣したり。故に目下閩南の陳軍は正に補充を爲して再び反攻を圖りつゝ、

あり。而して許氏は亦興寧・五華等の處の軍隊を召し一律に汕頭に集中せしめ、閩邊に向ひ前進の準備中なり。又林虎所部は江西境上に退きしより後、方本仁は十二縣を劃出して其の駐紮地とし、子彈軍費共に相當の接濟を爲し居れり。而して陳炯明亦代表を派して南昌に至り。方氏と攻守同盟を結びたれば、今後許氏の潮汕軍隊にして一たび福建に入らんが、林虎勢は必ず其の空虚に乗じ江西南境より兵を出し以て其の背後を攻めん。此れ許氏の刻下尤も慮とせる所に於て其の大舉入閩を決行し得ざる所以なり。(四月二十三日—新聞報)

### □ 廣東政府の財政窮乏

兵亂に次ぐ兵亂の爲め廣東政府財源の涸渴は極度に達し、尙ほ又今回の兵亂の爲め軍費の増額日を追うて加はり、人民は多年の苛税に疲れ、政府又之が徵收法に困窮し居れるが、之が救援策として最近左の如き企畫を爲し居れり。

#### 一、奢侈税徵收

未だ實施され居らざるも近く之が實施を見るべく、政府側に於ては具體案成立の趣なり。該税は日本に於ける夫の如く外來品に對するに非ずして國內製造の物と雖も之を徵收すべく、其品目は政府の指定に依るべきを以て、之等商人の不平は免れざるべく或は「ボイコット」を

惹起するに非ずやの憂あり。同地日本品輸出にも多少の打撃は免れざるべし。

二、占領後の汕頭鹽務署を手中に收めんとしあり

潮汕一帯は確實に許崇智の権内に入りたりと雖も、同地鹽務署は未だに之を意の如く爲すを得ず。同署の収入は汕頭第一との稱ある程にして、毎月二十萬元を下らず。財政窮乏の折柄許崇智の垂涎措く能はざる處たりしが、今回之を手中に收めんとし事務官に自己の部下一名を推選したり。然れ共署内に反對の聲高く未だ就任するを得ず苦心し居れる模様なり。許は最近廣東政府の暗雲に鎖されあるに鑑みて、將來汕頭を國民黨政府の樹立地たらしめざるべからざる場合あるを顧慮し、民心の反感を恐れ居る折柄とて、強壓的に出づるを悦ばず、本件に大に苦心し居れりと云ふ。戦後の掠奪又は苛税徴収は支那戦争の通弊なるに、許軍が汕頭占領後已に一箇月を経過すと雖も總務商會に對し二十萬元を要求したるに止まりたるを見るも、如何に民心の收攬に苦心しあるかを知るべし。

又孫文の追悼會開催に際し、廣東に於ける博徒の首領某が盛大なる結婚披露を爲したるが、政府に於ては其行爲甚だ不謹慎なりとて逮捕の上死刑を宣告したるが、同人は多額の金を所持し居たる爲め、其の近親は金にて宥免を請ひたるが、政府に於ては二十萬元提供を以て之を允許せり。

是等は支那としては通俗的の事にして一笑話に過ぎざるも、如何に政府の財政が窮乏しあるかの一般を窺知するを得べし。(四月十七日—南支情報)

### □ 陳炯明失敗の原因と飛躍の現状

直系の林虎推奨 香港より來れる信すべき人の言に據るに、曩に陳炯明が自ら惠州に退き守りしより、洪兆麟・熊略・葉舉等を率ゐて直系に聯絡せしは、皆人の知る所なるが、當時直系の強有力なる吳佩孚は頗る陳氏を直なりとせずして大に林虎を推せり。陳氏は元來極めて心に謀計ある人なれば、かゝる情形を觀るや、洪兆麟と謀り、潮汕を固守して靜に林虎の動作を觀ることゝしたり。

陳氏の暗中運動奏功 然れども其の實陳・林二人の間は表面と同せるも精神は睽離し居ること、林氏と雖も亦之を知れるのみならず、潮汕の富有なるを有利とし、己先づ陳に取りて代り、然る後再び廣州に入ることを圖らん意なりしが、吳佩孚の失敗するに及び林虎乃ち其の頼る所を失ひたれば、遂に前計を打消し、力を極めて陳氏と好誼を通じ其の餘惠の分與に預からんことを願へり。陳氏は林虎が誅求止まざるを厭ひ居るも之と絶つ法のなきに苦み、密かに委員を北京に派し某系によりて某要人に謁見するを得、自ら勇を奮ひ進んで廣州を取り全粵を平定し

て後之を率ゐて北方に歸參せんと欲することを告げしめたり。是に於て右の要人は直ちに允許し、命じて天津兵工廠より子彈三十萬を接濟せしめ、之を某軍艦に托し汕頭に運送せしめ、同時に福建江西兩省の陸海軍に令し、陳氏を協助して一切を進行せしむることなせり。

陳氏の軍議と失敗 陳氏は該電報に接するや、直に各軍官を召集して廣州進攻の策を商議したり。然るに其の時各上中級の軍官は多く蓄積を擁し、一人にて姪妾五六人を有し居る位なれば、其の従前の雄心已に金錢脂粉の氣に消磨し盡され、とても鋒を陥陣を摧くの想を起し得ざるに、忽ち此の言を聞きたることなれば、皆相顧みて顔色を失はざるものとはなく、やゝ半時間ばかりも對ふるものなく、只兵士の缺餉十三箇月に及び居れば恐らくは急の戦争の用には立たざるべしなど答ふるのみ。陳氏はに於て案を拍ちて大に怒り、諸君若し禍を畏れて進まざれば、本總司令自ら前進すべしと謂ふに至れり。翌日陳氏は洪兆麟に命じて四萬元を各兵士に配付せしめたるが、一人につき只一元を得たるのみなれば何人も進んで命を用ひるものなかりき。之に加ふるに林虎は期日を約しながら來り助けず。已むを得ず陳・洪軍のみにて戦争を始めたる事なれば敗退の外なく、又入閩後再び反攻に出でたるも是れ又利を失したれば、陳氏始めて従前の亂暴を悔い、東山より廈門に至り、直に馳せて饒平・永定・平和に起さ、各部將領を改組し、兵士は弱を去りて強のみを留め、共計實數精壯の勢二萬餘人を留めたり。

段氏の援陳密令 聞く段執政會て密令を發し浙江の孫傳芳・江西の方本仁・福建の周蔭人及海軍をして各實力ある軍隊軍艦を派し、陳炯明に協助して反攻せしめたりと。故に陳炯明は此の事に關し頗る樂觀を抱き毫も懊惱落胆の態なし。

福建民軍の無力 閩南民軍は本より團結の力なく、陳國輝失敗せしより後、其の急進派の實力は已に全く喪失し了れり。只張貞・許卓然・宋淵源等自己の米櫃の爲め尙機に乗じて利を取らんと努めつゝあり。陳炯明・洪兆麟の潮汕に占據せし時、皆該地に赴き陳氏が兵を派して閩省に入らんことを要求せしが、陳氏は深く彼等の内情を知れるさへあるに、又已に周蔭人との同盟も締結されれば、隣邦に困難を與へざる旨を以て之を婉曲に斷りたり。然るに今回陳・洪二人の失敗せるに及び、彼等は又許崇智の下に赴き之を激せしめて曰く、閩の周蔭人は已に張毅・李鳳翔の兩部兵をして陳・洪軍を協助せしめれば、必ず建國軍の害を爲さん。されば此の勝勢に乗じて閩に入り汀州・漳州の地盤を占め、又陳・洪の殘部を撲滅し其の銃兵器を收むるに如かず。周蔭人若し自ら力を量らずして尙強いて干渉せば全省民軍の力を合して之を驅逐するに難からじと。許氏は頗る其の聳動する所と爲り、先づ張貞・許卓然をして歸閩し各部民軍を集合して内應を爲さしめ、一方軍事會議を開き兵を三路に分ちて入閩せしめんと計れり。然るに張貞等は民軍中にての信用已に失墜し、其れ自身又寸兵片甲もなければ、其の鼓浪嶼に於ける大運動も

功を奏せず、焦心の餘再び汕頭に赴き方聲濤・孫本戎の出馬を請ひ、方・孫の力を借りて號召すと雖も各部民軍亦應せざりき。故に只其の機關報紙に大法螺を吹くのみとなれり。

唐繼堯と楊希閔の結合 此の際尤も意外なるは楊希閔と雲南唐繼堯氏との秘密結合といへる最近の消息の傳はる事にて、果して然りとせば廣東省の内に於て將に變動あらんとするは明にて、許部の健將張民達又新に湘子橋下に死し、蔣介石又露西亞の赤黨と聯合して共產主義を提唱せるを以て外國人及び商民の嫉視する所と爲り、段執政新に又浙江の孫傳芳・江西の方本仁・福建の周蔭人及び海軍に密令して、力を合せ陳炯明の反攻を協助せしめ、陳炯明・洪兆麟・林虎等の諸部は合計尙四萬人内外あり。許崇智氏は自ら所部及び吳鐵城等の部を度るに一萬人に及ばず、且江西軍兩混成旅は已に道を庚嶺に取り廣東に向ひて進行し、浙江軍兩混成旅も亦已に閩省に向ひて前進し、福建江西の邊界より廣東に入らんとし、海軍は東山・詔安に集合し兵を勵して出發を待ちつゝありと聞けば、許軍は已に四面楚歌の中に在るに似たり。故に許氏は入閩の謀を擱き、身は輕装して廣州に急行し楊希閔方面と極力相談中なりとさへ傳へらる。

(四月二十六日—新聞報)

### □兩廣近情彙電

陳炯明の劃策 陳炯明廈門に到着して後直ちに永定に赴けり。云ふところに據れば尙ほ三萬の兵卒と二萬挺の小銃を有し一戰するに足るべしと。現に林虎と妥協中なれば其の成立次第反攻すべしといふ。(四月十三日—福州電)

許崇智の入閩を請ふ 張毅は陳炯明部進みて汀・漳・龍各地を占領し、將さに併呑されんとするに因り、特に許崇智の速かに入閩方を請ひ以て陳部を解決せんとなす。(四月十四日—廈門電)

林虎部の移動 聞くところによれば林虎部は近く江西邊界より北江に向つて移動せりといふ。

胡漢民に對する再任運動 胡漢民氏西南各代表に向つて廣東省長を辭せるも、廖仲愷は極力楊希閔及劉震寰と聯絡して繼任を謀れり。十二日廖は楊劉に謁見して謂ふ、唐繼堯にして共產に反せざれば唐氏討伐を取消すべしと。(以上四月十四日—天津電)

楊希閔調兵北向の理由 楊希閔は連日東江の滇軍を調動して廣東省に返り、再び轉じて北江に赴かしたるは、北江の地盤が桂軍の爲めに占據さるゝを恐れたるに因る。

汕頭軍隊の暗中交代 十五日南華西報に汕頭訪函を載せて曰はく、林虎洪兆麟は張民達の溺死に乗じて反攻し、已に潮州城を去る十五乃至二十英里の鎮平地方を占領したり。故に許崇智軍は現に潮城附近の各山を嚴守し、汕頭軍隊は時に暗中交代を行ひ、他處へ轉出入の噂さへ有



第百四十號  
りといふ。

桂軍の戒嚴と住民の恐懼 十三日の夕方廣州の桂軍は戒嚴を布きて大佛寺に駐紮せり。桂軍は夜中に石瓦を以て臨時砲臺二座を築きたれば、附近の居民多く恐懼の心を抱けり。

(以上四月十六日—香港電)

胡思舜と楊坤如との諒解成立 胡思舜は博羅縣長を派して楊坤如に勸むるに惠州を退出すべきを以てせしに、楊の答ふるやう、能く彼が軍を駐めずして人民の安全を保護するを得ば楊自身は自ら問題無からんと。(四月十七日—香港電) (四月十八日—新聞報)

廣州賭博税の瓜分禁制 大本營は十六日譚延闓・許崇智等を財政員に任じたるは、雲南(滇)廣西(桂)軍が廣州の賭博税を瓜分する事を制止せんが爲めなり。

李宗仁の捷報不確實 李宗仁の柳州より來れる捷報によるに曰はく、我軍は十三日小長安より桂林に攻め入りたるに、小銃四百、砲一門を捕獲し、沈鴻英・韓彩鳳は已に戰鬥力を失ひたるも、惟だ梧州の消息によれば老虎口に駐在せる李部の三千人は十四日韓の爲めに進撃を受けて柳州へ退きたりと。(以上四月十七日—香港電)

非共產派の暗中飛躍 廣州の非反共產派は暗中滇唐との聯絡を圖りて共產派及胡漢民を推倒せんとせり。

共產黨の議決 共產黨の會議に於て軍民各政は執政委員會に由りて處決し、省長に咨りて執行し黨を以て國を治むることに議決せるも、楊希閔・劉震寰は之に賛成せずといふ。

(以上四月十九日—香港電)

### □廣西の現状

范部の改稱 唐繼堯軍と范石生軍との戦は廣東側の各報は、好んで捷電を偽造して士氣を壯にする風ありしより、人多く此等の電報を信せざりしが、定滇軍即ち范李黃の聯軍の報告に據るに、三月二十八日より四月二日迄に已に唐軍龍雲部の兵を撃破して邕寧を包圍したりとあるが、近日梧州歸客の實談に符合するものあり。稍信すべきに似たり。元來范石生部が始めて廣東より廣西に入り、李宗仁・黃紹雄部と聯合して唐繼堯氏を拒ぎたる結果、遂に稱して滇桂聯軍と爲したるが、後此の名の廣東なる楊希閔・劉震寰兩部の聯軍と混合する恐れあるより俄に改めて定滇軍と稱することゝなれり。

唐軍の敗報 最近梧州より歸れる粵商の談に云く、廣西省の戦事は賓陽の方面を最も劇烈なりとし、該路を擔任せるは李黃部に屬する桂軍なるが、三月三十日高田に勝ち、前鋒は邕寧を距る約六十支里に至り、大河方面は范石生の擔任にて是又進んで五塘に至る。(邕寧を距る僅に

第百四十號

五十支里)李黄此の報を得て四月一日急に猛進したるに、唐軍の總指揮龍雲は敵の已に城に近づけるを知り、林俊廷等の部千餘人を留めて城を守らしめ、龍雲自身は大部隊を率ゐて賓陽に向ひ反攻し、二日敵軍と接觸したるも遂に勝つ能はず、退いて邕城を距る二十支里の二塘地方を守り防禦工事を施して嚴重に抵抗したり。然るに地勢を踏せざる爲め黄部の包圍攻撃する所と爲り、一團の衆を擧げて皆黄部の爲め武器を押收さるゝに至れり。茲に唐部は再び退いて一塘を守るが、(一塘は邕城を距ること僅に十支里のみ)林俊廷部は聲に驚かされて城を離れ退いて亭仔圩に至り、尋いで龍州に退くの準備を爲し、後には龍雲部を留守せしめたるのみとなり。三日范・李等の部は兩路よりして邕城に迫りたれば、龍軍亦死守の得策ならざるを以て四日二路に分れて退出し、一は亭子に退いて龍州に入り、一は隆安に退いて平馬に至る。是の役官兵の死傷千人以上にして、押收されたる銃器千餘挺、大砲三門、騾馬二百餘匹、烟土十餘萬兩に上れり。(高田實陽二塘の役)

唐軍失敗の原因 今回唐軍の敗戦したる原因は種々あるも、先づ其の一因を擧ぐれば龍雲部は堅く同じ雲南軍を打たずといふ主義を持せるに、李・黄部の廣西軍は前に雲南唐軍あり後に廣西劉震寰軍ありて、地盤擁護の爲め必死の力を出し、龍雲部の地理に暗きを利用したること、是れ其の敗因なり。次に今回唐軍の桂粵に對する三路進兵の策を取り、一は邕寧に入り大河に

沿ひて潯州及梧州に下り、又一は龍州に入りて廣東の欽州を下し、又他の一は貴州より馬平即ち柳州府に入りて大河の中部を襲ふ筈なりき。然るに邕寧方面は已に成效を收めたるも、欽廉方面に入るの一軍は、該處八屬の清鄉督辦たる鄧本殷が陳炯明の手を離れて聯軍に附くの意を帯び來りしのみならず、范石生が廣西入後努めて鄧と聯絡せんことを求めたる結果、鄧は之に應じ討唐大隊中加入することとなりしかば、唐軍の邕寧に入るものは直ちに范軍に襲はるゝの虞ある爲め猛進せず、柳州路は又貴州軍の態度不明なる爲め唐軍胡若愚部は深入を避け、其の前鋒僅に進んで三江縣に至りて止れり。此れに因りて范李兩部は銳を悉して龍雲の衆を合攻するを得、林俊廷亦戦はざるに逃走するに至れるなり。又次に唐氏の入桂と副元帥就職は皆聯治派政客に利用されたるにて、唐氏としては必ず目的を達せんとすの決心なし。故に廣西省の殘兵を收めて前線に任じ、邕城を守るの林俊廷部も無力の軍なれば敗るゝは當然なり。是れ其の第三因なりといふ。

胡唐の接近 唐軍の失敗已に此の如しと雖も近日に至り民黨の要人胡漢民は龍雲軍に向ひ反りて接近せんとする意あり。今其の機關たる通信社の消息に據るに、廣東大本營の對唐問題は中央黨部が討伐を宣言する外各總司令も譚延闓に討唐の通電を擬草せしめ、直ちに署名打電する迄になり居たるに、孔庚の來粵により急に意思の疏通となり、民黨各要人の唐氏に對する、

亦絕對聯合すべからざるものに非ずとの風を生じ若し唐氏が(一)其の聯治説を取消し(二)國民黨に加入し主義に服従し(三)入桂の師を引き去るの三點に承認せば、其の他の各事は自ら商量の餘地ありとし唐氏に接近するを願ふの意向を示せり。蓋し其の事の茲に至りしは滇軍楊希閔桂軍劉震寰の逼る所と爲りし結果にして、楊・劉は近日に至り一方重兵を東江に駐め又一方粵漢路一帶に在りて嚴重に戒嚴し、各將領を聯合して、擁唐に出で、若し胡漢民等が之に反對せば右二路の兵を以て廣州を合圍せんとするに似たり。故に胡氏は公然之に反對するを爲さず、特に條件を出して絕對拒唐の意に非るを示せり。此の現象より考ふれば將來粵局の變動は或は廣西内の戦争の結果に依らざるやも知れざるなり。(以上四月二十一日新聞報十四日附廣州通信)

南甯尙包圍中に在り 廣西の大局は實に四分五裂の状態にして、北方桂林の沈軍は已に退出したるも、興安・全州・灌陽・義寧の一帶は仍ほ沈軍勢力の下に在り。此れ聯軍李宗仁・夏威等の兵力未だ足らざるを以て之を追窮する能はざるが爲なり。加ふるに北方の綠林皆沈軍と好感あり、時々之と提携するを以てし、且劉震寰亦人を派して該處の綠林と聯絡せるをや。されば舊桂林府屬各縣の劉軍は未だ樂觀する能はざるなり。又柳州の韓彰鳳は李宗仁の派遣したる白崇禧に擊敗られて長安に退きたれば、今後は問題なからん。只南甯の龍雲は屢々挫敗せるも仍ほ城に據りて守れり。之を前敵より梧州に歸來せるものに詢へば、皆謂ふ龍雲の屢々敗れたるは地理

に熟せず人情を悉さざる上に銃兵器の足らざるが爲にして、其の訓練素養あるの結果包圍攻撃を受くること十日餘に及ぶも聯軍尙未だ手掛りを得ざる譯なり。前日來聯軍の邕に入るを傳へ、香港廣東の各報紙は皆之を記載せるも實は仍ほ包圍中に在るのみと聞く。只憐むべきは城内の人民が流彈の爲に死せざれば飢渴の爲めに死することにて、黃紹雄が十四日に發したる電報こそ眞に其の近情を知るの一助と謂ふべけれ。電文に云ふ、唐繼堯氏は野心あるの虎狼にして龍雲は其の鷹犬なり。今次深く賓陽に入れるも、我が軍の爲迎へ撃たれて、今は殆ど軍を成さざる狀況なるが、賊心死せずして尙殘衆約二千餘人を率ゐる邕城を死守して援兵を待ちつゝあり云々。(四月二十四日新聞報十七日附梧州通信)

### □支那の燈火用石油市場

一九二三年度に於ける支那の石油類總輸入額中米國よりの總輸入額は三割六分を占め、且つ輸入品中最も多額に上るもの一なり。支那海關の報告に據れば、支那の直接米國より輸入せる總額は一五四、四八八、〇〇〇海關兩(一兩は〇・八弗換なるを以て、二三三、五五八、四〇〇弗)にして、其内五五、六三二、〇〇〇海關兩(四四、五〇五、六〇〇弗)は燈火用石油・石油瓦斯・機械油及巴刺賓・蠟等なり。

石油誘導體の實際の輸入價額は據るに足る海關報告の價額より遙かに巨額なり、然れども原來米國産にして香港・加奈陀及其他各國より輸入せられし價額は正確なる決定困難なるに因り、之れが比較には已に出版せし材料に據る必要あり。例へば一九二三年度に於ける米國産燈火用石油の總輸入量は一八二、二五〇、八一七にして、其價額四八、七七五、五六七海關兩なるを知るべし。即ち海關に於ける對外貿易の項目に據れば、原來米國産としての輸入は一五九、五四四、七六〇瓦、其價額四二、二三一、九〇一海關兩にして、其差異は香港よりの輸入及新嘉坡經由積換にて輸入さる等の項目となれり。只燈火用石油の實際價額は海關の統計表より得べきも、其他の石油誘導體の價額は得難きなり。故に燈火用石油に關する價額は頗る正確なれども、其他此種各油の價額は單に直接米國より輸入されたるものゝみにして、積換等に依り輸入せられたるものは更らに其加入を考慮せられざるなり。

純粹燈火用石油の輸入絕對必要

支那に於ける礦油の産出は商取引上の數量に達せざれども、純粹燈火用石油の需要頗る旺盛なるを以て、輸入せらるゝなり。原來礦油は支那の各地に多量に埋藏せらるゝと雖、運搬上異常なる不便を有し、加ふるに輿地は頗る不安定なる状態にあるを以て、外資及支那資本の投下に依るも其發展は困難なり。

支那に於ける毎年の燈火用石油の消費量及米國よりの其輸入量の堅實なる増加等は支那海關の報告より拔萃せる價額に依るも證明せらるべく、一九一〇年より一九二三年に至る間に於ける燈火用石油の輸入價額を示せば左の如し。

支那の燈火用石油輸入額 (單位一千弗)

國別	一九一〇年	一九一四年	一九一九年	一九二三年
米國	六、〇〇〇	二〇、四八六	一七、〇四四	一九、七七一
日本	五、八〇〇	三、六六六	六、四〇〇	五、二四〇
暹羅	五、二〇〇	五、二〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
露國	二、三〇〇	五、三三三	三、〇〇〇	三、〇〇〇
スラ	四、七〇〇	三、六六六	三、〇〇〇	三、〇〇〇
波多	三、七〇〇	三、六六六	三、〇〇〇	三、〇〇〇
其他各國	七、〇〇〇	一、四四四	一、四四四	一、四四四

右表に據れば、米國の供給高は一九二三年度に於て輸入燈火用石油總額の八割二分五厘に當り、瓦に於て八割三分三厘に當れり、而して一九一〇年度は價額に於て五割二分八厘を、數量に於て五割九分五厘を供給せり。一九二四年度上半期の燈火用石油總輸入量は一〇五、〇五七、〇〇〇瓦にして、一九二三年度上半期に於ける輸入量は一〇三、三三三、〇〇〇瓦なり。尙ほ米國

の此油の供給高は一九二四年度に於て七割七分、一九二三年度に於て八割五分なり。

燈火用石油の堅實なる消費増加

各貿易港に在りては殆んど電燈を利用するを以て、燈火用石油の使用は大量ならざるなり、然れども奥地に在りては洋燈及角燈に依りて光を取り居るを以て、燈火用石油の重要且つ確實に進歩せる市場たり。其重大要素は恐らく運搬の益々容易となり、從來運搬し得ざりし各地方にも此油を輸送し得るに至りし結果なり。而して此種の進歩は事實にして、燈火用石油の使用も漸次増加すべし。石油會社の證明に據れば、支那全土に亘りて蠟燭・木蠟燭及其他從來用ひられし燈火材料の燈火用石油に交換されたる速度は異常なる進歩を示し、且つ其人氣は此種會社及其他輸入業者の工夫せる洋燈・角燈及其他の石油發光器の輸入に依るが如し。

二會社の市場支配………(分配)

支那に於ける燈火用石油取引の殆んど八割五分は二箇の會社に依りて支配せられり、即ち其一大米國會社にして、專問に米國産油を販賣し、他は一大英國會社にして、和蘭及其他の製産者の代理店として其販賣をなし又米國産油も或範圍内に於て其販賣に従來せり。此等會社に於ては燈火用石油を其所有汽船に撤積として輸送し、而して各商港に貯藏し、其各港より更らに航行の自由を有する河川を利用し、船により各地に分配するものにして、其各地には亦貯

藏庫の設備を有せり。尙此種油の輸送に要する準備は全部會社に於て負擔せり。

燈火用石油の荷造所は最小限度の費用にて運搬し得る各地に設けられり。此等の會社に於ては支那人苦力を使用し、弍力を輸入し又多量に板を購入し、米國或は其他の各地方より箱入にて輸入せられたるもの、價格の到底及ばざる安價にて、彼等會社の油を箱入りとなし、支那の奥地に配分し居れり。而して燈火用石油取引市場に於て約一割を占める一米國會社に於ては全部箱入にて輸入し、倉庫を有利なる中心市場に設け、其處より各地に分配せり。

一時的獨立取引

獨立せる石油會社は支那市場價格にして、箱入品の相當有利なる價格に決定せられたる時は、支那商人の注文に應ずべく米國に燈火用石油を注文す、而して此等商人は一般に商埠に在るものにして、彼等は之れを一地方に販賣し、又は其他地方の代理店に轉賣するなり。尙彼等の契約に據る購入價格は、取引上彼の最も大なる會社より購入せる時と、同様の利益を彼等に與ふる價格ならざるべからず。支那市場に於ける價格の好轉せる時は、證文に據る注文取引を行ふ小商會の數を増加する傾向あり。即ち市價の著しく騰貴せる時期には、獨立せる精製油廠油の輸入商及代理店は或程度迄で、自己の計算によりて燈火用石油を購入し、利益を謀れり。然れども此取引は極端なる一時的性質を證明するものにして、殆んど如何なる場合に於ても其終局は

有利ならざる状態に變化するものなり。例へば一九二二年に於けるが如く、燈火用石油價格の著しく昂騰せし時は、上海に在りて獨力を以て燈火用石油を輸入せる商店は約二十五軒の多數に上りたり、然るに現在に在りては市場相場の著しく低下せる結果、其數僅かに六軒を出でざるべく、而して此種の取引は箇々のものなるを以て、只市價の變化如何に依りて利を得、或は不利に至るものなり。

二大會社の有效なる組織に依る成功

此等二大會社の燈火用石油市場に於て成功せるは第一彼等の支那各地に此種油の分配上遠大なる組織を有し、各異なれる地方に於ける状態を調査し、最小限度の費用にて運搬し得べく徹底的に努力を繼續し、絶えず廣告し、而して各種の燈火器を紹介せる爲めにして、此等會社は支那の各地に於ける支那人代理商と契約の網を張り、彼等に委託品として燈火用石油を輸送し、其賣上代金は代理店に於て手数料・倉入れに依る一定の減量及其他の費用を差し引かしめり。而して燈火用石油に對する此等外人會社の所有權は代理店より支拂金を領收する迄は持續するものにして、此組織は種々なる利益を有せり、即ち其内最も有利なる一つは最近數年間外人の所有物たる故を以て、盜賊は躊躇し、軍隊の干渉を恐れ、比較的安全なるを得たる事なり。

(カンマース・レポート一月十九日)

比律賓

□比島に於ける産業(二)

家具。家具製作業は家内工業として盛に行はれ、原料例へば硬質材(Narra, Molane, Ipi等)、軟質材(Almon, Luanu及其他)、竹、籐及他の莖類を手近に得らるゝの便あり。大都市殊にマニラに於ては高級家具例へばベット、桌子、椅子、長椅子事務用机製作所あり。年産額約二百萬比を計上す。又多數家具類はピリピット監獄囚人によりて大規模に製造せられ製品は島内及海外に向けらる。又竹、籐製家具類は廉價にして軽く且つ耐久力ある故に廣く重用せらる。殊にブライカンに於て大規模に製造せらるゝ、San Miguel 籐製椅子に於て然り。又香港竹製及籐製椅子として著名なる其材料は何れも比島産なり。然れども其製品は幾干もなく、San Miguel 製品により壓倒せらるゝに至るべし。

發電事業。比島には發電所(小規模のものは含まず)三十五ありて之れに投資せらるゝ總額三千百萬比以上に及ぶ。各工場は特殊法によりて運轉せられ比島公益調査委員會管理に屬す。最大なるはマニラ電力會社にて平常約一萬七千キロワット能力を有し燈用、動力用及市電、郊外用電車に供給す。

假設發電所多數なるにも拘らず比島人口竝に富の増大し行くに連れ今後益々電力を必要とす

るものなり。即ち島内市民は其必要を感知し資本家と相提携して著々発電所を増設せるより一九一八年発電所數十四に過ぎざりしもの一九二四年四月現在數四十三の多きに達せり。而して將來比島發電事業の趨勢は年々輸入電氣機械器具類の著増するに徴し明なる所なり。

總て發電所用機械器具は米國製にして一九二二年輸入額一、八九一、九六七比に對し一九二三年二、三三二、〇九〇比に達し就中米國よりは其九十五パーセントを供給す。

凡そ比島に於て製鹽業を創始したるは三百年前の事なれど其歴史未だ詳ならず。近來比島海邊に居住せる人民は新式製鹽法によりて製造をなす。其主要地を擧ぐればリサル、カピテ、セブ、イロイロ、ブラカン、イロコス・スール、ラ・ユニオン、パンガシナン、イロコス・ノルテ及他の海岸諸縣等の如し。

同島製鹽年産額を擧ぐれば次の如し。

年次	數量	價額	年次	數量	價額
一九二一	1,250,000	250,000	一九二一	1,250,000	250,000
一九二〇	1,250,000	250,000	一九二〇	1,250,000	250,000
一九一九	1,250,000	250,000	一九一九	1,250,000	250,000
一九一八	1,250,000	250,000	一九一八	1,250,000	250,000
一九一七	1,250,000	250,000	一九一七	1,250,000	250,000
一九一六	1,250,000	250,000	一九一六	1,250,000	250,000
一九一五	1,250,000	250,000	一九一五	1,250,000	250,000

年次	數量	價額	年次	數量	價額
一九二一	3,125,000	625,000	一九二一	3,125,000	625,000
一九二〇	3,125,000	625,000	一九二〇	3,125,000	625,000
一九一九	3,125,000	625,000	一九一九	3,125,000	625,000
一九一八	3,125,000	625,000	一九一八	3,125,000	625,000
一九一七	3,125,000	625,000	一九一七	3,125,000	625,000
一九一六	3,125,000	625,000	一九一六	3,125,000	625,000
一九一五	3,125,000	625,000	一九一五	3,125,000	625,000

備考 一九二二、二三兩年度數字は二十縣のみに就きて其産額を計上せり

島内諸産業中製鹽業は最も簡易なる工業にして單に海水を蒸發せしむるに止まり生産費も亦低廉なり。即ち原料たる海水は無價且つ無盡蔵に得られ加ふるに熟練労働を要せざるを以てなり。製品は専ら鹽魚用に供せらるゝ粗製鹽なるにより精製食鹽は輸入に待たざる可らず。

製菓業 其發端は久しき以前の事なれども未だ幼稚の域を脱せず現在僅かに其工場數十四（主としてマニラ）を數ふるのみ。而して工場所有經營者を國籍別に示せば米人二、比人四、日本人三、支那人三、英人一、西人一の如し。之等の中其三は新式製造機を有す。此他比島には麵粉製造所、製菓所、カラメル工場凡そ一千に達す。

製菓原料の主なるは椰子、カンイ・ナッツ、落花生及ビリ・ナッツ、チョコレート、牛乳及風味料等、就中砂糖、椰子、落花生及カンイナッツは島内生産に係り落花生は支那及濠洲より輸入しビリ・ナッツ及チョコレートも同島に於て産出せらるれども大部分は輸入に仰ぐ。罐入りミルク及香味料も亦外國品を以てし、工場にては罐入り、罐入及箱詰となす。

前述せる如く比島製菓業は幼稚の域を脱せざれども産糖増加又絶えず熱帯産各種ナットを容

易に得、且つ又糖果に對する需要大なるを以て同工業は尙ほ未だ發展の餘地あり。

石。 石鹼製造業は大規模（マニラ市に多し）に行はれ現今マニラに大規模工場一、其他製造所約八十ありて大部分は支那人所有に屬す。之等工場は重に洗濯用粗製品を製造し化粧用石鹼は少量のみ供給せらる。即ち化粧用石鹼の輸入額は年々多量にして一九一〇年價額三三八、二〇二比、一九二〇年一、三七六、九四八比に及ぶ。又一九二三年輸入額は僅に七八六、九三二比にして一九一八年石鹼製造價額三五〇、〇〇〇比に達せり。

洗濯用洗器用若しくは化粧用石鹼の何れにもせよ其主成分は油及アルカリにして後者は水酸化ナトリウム及粗製炭酸加里を混用す。普通洗濯用に供せらるゝ支那製石鹼は椰子油、水分、鹽及商業上苛性曹達と稱する水酸化ナトリウムより成る。支那石鹼に二種あり其一は白色且硬質なれど他の一は軟質且つ一端若くは兩端に硬白部分を有する黄色のもの兩者共に其成分は略々同様なれども前者に於ては後者に於けるよりも多量に苛性曹達を含有す。

セメント。 本島には又セメント原料多量に發見せらる。其主要なるものに純粹且硬き石灰石を有する石灰質原料及泥板岩、粘土及火山灰を含める粘土質原料の二あり。

洋灰製造地として特記せらるゝはセブ島、マクタン島、アルバイ縣、マスバタ島、ポリロ島、パンガシナン縣パニ、ロムブロン島、ボタンガス縣パレーヤン及其附近及ボホール縣ロアイ

等、之等各地にはセメント原料を豊有し加ふるに水力若しくは燃料石炭竝に運搬用設備あり。然れども就中港灣設備よく燃料多量且つ原料豊富にして道路並に鐵道利便多きセブ島はセメント工場地として最も適當なり。又同島にはマララに於けるよりも労働者多く且つ低廉なり。セブに近きニグロス島にはセメント樽製造を目的とする數箇の材木會社存す。最近セブ島ナガに新設せるセブ洋灰會社（資本金五百萬比）は東洋に於ける最大工場の一にして其資本は専ら政府商業機關なるナシヨナル・デベロープメント・カムパニーの出資に係る。同工場は製造能力一日最高約五千バレルと稱せられ將來の活動を矚目せらる。

此他一九二四年三月現在挽材工場數六十八、石版・印刷・製本業・大工業・乾鹽魚業・コブラ乾燥業・マカロニ・スパゲティ及西洋素麵製造業・製氷工業・金銀細工業及玉蜀黍製粉業等は個人的企業として見るべきものあり。尙ほ又染料品・絹絲・乾燥椰子・鳳梨・硝子・製紙・絨氈・香水・屋根材料・澱粉及バ、ヤ、ガム製造業は前途頗る有望なり。

造船業。 西班牙統治以前に於ける比島造船業は海岸に接近せる諸省に於て盛んに行はれ「Laguna」、「Paras」と呼ぶ木造船（今日二千噸級船に同じ）百人の漕手を以て兵士數百人を輸送し得たり。當時既に大艦船ありて深海の運送に堪えたり。近年モロー地方に於ては「Vinta」と唱ふる船舶存し北部諸島及蘭印諸島間の交易に専用せらる。



一九一八年當時比島には造船會社三十五(總資本額一二、二九五、九五、九五一比、製造價額二、六五六、五〇八比)、就中其十八はマニラ及他の七縣(カガヤン一、カビテ二、イロイロ四、オクシデンタル・ニグロス一、マニラ四、バンガシナン二、ソルソゴン三、サムボアンガ一)にあり。前記諸會社は優に二百五十噸以上船舶の建造に従事し既に其二、三は二百五十噸及其以上噸數船舶を建造したり。然れども大部分は比島近海航行に従事する小船舶の建造に限らる。

造船業盛んなる諸縣には、材木無盡蔵に存し其他縣よりも材木及職工を多數に送り。最近の調査に據れば比島造船界は特にバンガシナン、カビテ、ソルソゴン、サムボアンガ、マニラ及ラグイマノック、タヤバス地方に於て材木の供給、労働者の潤澤と相待ちて今後更に大注文に應じ得べく僅に勞力不足を告ぐるはカヤガン縣のみと稱せらる。

鑄鐵所。比島中鐵工所の多く存在せるはマニラ、市にして此他イロイロ及セブ兩島に少しく存在す。然れども近年農業及各種製造業の物興と相俟ちて一大進歩を遂げ現在にてはマニラに約二十箇所(各種修繕器械を有し、職工數百人を使用せる大規模工場より簡單なる器械裝置によりて僅に數名の職工を使ふるに過ぎざる小規模機械工場を含む)あり。

鑛泉。比島に於ける清涼飲料水製造業は殆んど小規模製造業者の手に成るものにてマニラ、二十三工場中會社組織のもの二、三に過ぎず他は皆組合若くは個人經營に屬す。又他縣内にも

小規模炭酸水工場あり。

主要原料は重炭酸曹達・硫酸・精糖及風味料並にコルク・錫栓・罎にして飲料水はレモン水・撒爾沙水及曹達水を普通とす。

製品の消費は國內市場なれども最近一工場よりは爪哇及印度支那へ向け製品の輸出を行ふに至れりと稱せらる。各工場の産額は時に例外あれども殆んど地方消費に限らる。炭酸水に對する需要は一年を通じ強氣ならざれども暑熱期に於て最も盛んなり。同島は又年々炭酸水四萬乃至六萬比を輸入し居れり。

織物。現在二、三地方に限らるゝも織布業は家内工業として最も歴史古きものなり。當初斯業は私的消費に止まりしが後漸次に島内取引に於ける重要分野を占むるに至れり。一九一八年簡易紡織機より六八〇・二四六比を製造したり。其重要な種類を擧ぐれば即ち左の如し。

- Sinamay, Abutex.....兩者共にアバカ纖維より製織せらる。
- Pina.....鳳梨纖維より製造せらる。
- Justi.....コムをひいた紡績絹絲に人造絹絲或は土産アバカ、Pina及マデー纖維を混織せるもの。
- Alal Iloco.....又は Ilcano Cloth と稱し Ilcas に於て土産及輸入綿絲より製造せるもの。

シナミー布は比島婦人の常用する所なれども又 'Carnisa de China', 'Barong Filipino' として男  
装用に供せらる。産地はイロイロ縣内ハロー、ラ・バス、アレバロー、ドマンガス、サンタ・パ  
ルバラ、ポトタン及オトン及カビス縣カリボ其他數市、ビコール縣レガスビ及リサル、ブラカ  
ン等を主なるものとす。

又ジュシー布は島内及外國(殊に支那より)より原料を仰げるものにして此ものは細絲に紡が  
れたる絹狀纖維にしてゴム引せられしものなり。而してジュシー布は細絲若くは人造絹絲を交  
せて織布せらる。其他仕上げの際には土産アバカ、ピナ及マゲーをも混織す。其最優良品は綿  
絲の代りに紡績絹絲及美麗なる土産纖維を以て製造せるものにして主要産地はリサル縣マラボ  
ン島及ブラカン縣ハゴニーなり。

アベル・イロコ又はイロカノ布は毛布・タオル・拭布・食卓用布等一般的總稱にしてイロコス  
ノルテ、イロコス・スール、ラ・ユニオン、アブラ及山地縣に於て少量を産す。製織用綿絲は支  
那・米國・英國及他諸國より輸入せらるれども又島内にも多量に生産をなす。比島製布は耐  
久強靱なれども紡績法粗なるより生産費高價を唱へらる。又アベル・イロコは多くの模様を織  
られ各種織布に適す。他の土人織布に比し本品は耐久性強きを以て優良なり。其産地はイロカ  
ノ縣各地に製造せられ商業的に産出せらるゝはバオアイ、イロコス・ノルテ(タオル)、毛布類を

産す)なり、又毛布並食卓用カバーを製造する。バンガール、ラ・ユニオン及バンタイ、カオア  
イヤン、イロコス・スールに於ては主として婦人用輕裝布絹纖維及ハンカチーフを製造す。  
鞣皮。比島に於ける鞣皮業は甚だしく重要ならず。マニラには支那人所有に屬する鞣皮製造所  
七ありて在マラボン、リサル製鞣所は最新機械を具備す。又小規模鞣皮工場はバンガシナン縣  
ダグバン、カマリネス・スール縣ナガ、バタンガス・タール、セブ縣セブ、ブラカン縣メイカウ  
アイヤン等に存す。在マラボン比島製鞣會社は年額一五、〇一六枚、又他の十二製鞣所より同  
鞣總計二千五百乃至五千枚を製造す。製鞣店及工場に要する鞣皮は依然増額を辿りメカウアイ  
ヤン及マニラ製鞣所々要皮類は同各縣より得らる。尙ほ比島には各所に大放牧場あれども皮革  
の大部分は牛及他動物の屠殺所より得。而して其重要な屠殺所はバツタンガス、ミンドロ、  
ホロー、サムボアング、マスバテ、カタンドアネス、ミスアミス、セブ、バラワン、ロムブ  
ロン、パンガシナン、ヌエバ・エシヤ、タルラク、バムバンガ、イロコス・スール、イロコス・ノ  
ルテ及ブラカンの各地となす。

氏島産マングローブ及 Camachile 樹表皮は製鞣材として重要なものなり。前者は豊富且  
つ廉價にしてマニラ市場には一擔(六三・二五キログラム)當り三・五〇比乃至四比を唱ふ。科學  
局の實驗に據れば Camachile 及マングローブ樹皮を混用せば良質且淡色鞣皮を製造し得と稱

せらる。然れどもマニラの他地方に於てはマングローブ樹皮は粗悪且つ暗赤色を呈すとの理由の下に通常用ひられざれども歐米に於ては盛んに使用せらる。之れに反し *Canachile* 樹表皮は汎く一般に用ひらる。而して同品價格はマニラ市場に於て一擔當り九比以上と稱す。該樹は島内各地に存し殊にイロコス、ボタンガス、ネエバ、エシハ、リサル、ラグナ及カビテに多し。染料。比島には染料原樹百種以上を數ふれども可なり商業的に取引せらるゝは即ち藍及 *Indigo* (學名 *Biancaea Sappan*), *Siburo* (學名 *Cassipinia Sappan*) の二なり。藍は又 *Tayum*, *Tayum Tayum-tayum*, *Tayumtagung* と稱し *コル・タール* 及人造藍製造後商業的には著しく取引減退し現今に於ては北部ルソン特にイロコス縣(就中其少量を輸出す)地方に於て小規模に産出せらるゝのみ。斯の如く藍製造業不振を極むれども之れが復舊は絶望と云ふに非ず、却てアバカ、*Yam* 棉及敷物、帽子、籠類の如き製品の着色用に大に嚮望せらる。

通常 *Sappan*, *Siburo* として知らるゝ、サバン樹は灌木(栽培せるものに非ず)にして重にギマラス島及バナイ地方に存在す。此ものは元々褐色材なれども混用する元素に従ひて幾様にも變色す。即ち硫酸鐵と混すれば黒色を呈し重クロム酸加里鹽に混すれば赤色並び石灰を共に用ふる時は暗赤色を付染せしむ。其他の色合はサバンに比島産 *Aro-O* 樹々皮 *Kuning* 樹根幹等を混入し夫々赤褐色、黄金色を呈せしむるを得。又科學局はブラジル産一樹より *Brazilin* を含め

る着色材料を發見せしが、其作用迅速ならず酸、アルカリに對し作用速なるが故に染料として適當せざるものゝ如し。

其他の染色材料に擧げ得べきものは *Bayog*, *Banendo*, *Unugon-lake*, *Mangrove*, *Bancal* 樹及 *Achinete* 種子なり。

石灰石及煉瓦。科學局報告に據れば比島を通じて石灰石の産出は頗る多量にして將來發展の餘地充分なる工業は砂及石灰を原料とする人造石及煉瓦製造業にありと稱せらる。建築用石及砂。石灰煉瓦の用途は建築用ブロック、臺石、垣石、版石、タイル、型石、方立、楯石、階段、邊石、管石及裝飾石、人造大理石等なり。

硅酸砂は砂石灰煉瓦製造業にとりて最適且低廉なる硅酸の原料と稱せらる。又硅酸は屢々石切場岩滓、軟質岩石及火山凝灰岩より得られ之等岩石は島内各地に豊富に産出せらる。

科學局の報告に據れば石灰材料の最も普通且著名なるは第三紀中新世石灰石にて通常泥板岩及砂石と共に産出し馬來群島の殆んど各島に發掘せらる。

マニラ近部にも亦石切場岩滓を得。其用途はマニラ防破堤、碎石舗道及コンクリート建築物等にして現今石切場所在地はリサル、タリム島に接せるマニラ、マニラ灣南方入口カラバオ島及マリブレス附近シンマンの四箇所なり。

家根葺材料の主なるものはニツバ、亞鉛引鐵及輸入瓦にて就中ニツバは最も廉價且つ普通に用ひらるゝものなれども燃焼し易きを以て大都會に於ては其使用を禁せらる。亞鉛引鐵は輸入瓦と共に家根葺材料には好適なれども稍々高價に過ぐ。依りて最近二、三年間適當且つ廉價に供給せらるゝ材料を考慮研究中なり。

斯くて絶えず科學局は其代用物に對する實驗研究を行ひ粘土に凝灰岩、粘土に砂を混じ又瓦に釉藥を試みしが此ものは前二者に比し不透水性最も大なり。然れども釉藥材料は輸入に仰がざる可らざるより科學局は盡く比島産材料を以て經濟的に製造し得べしと聲明し居れり。

○。リサール縣サン・フェリッポ・ネリに在る燐寸工場は比島唯一のものにして約二十年前の創立に係り全部比島原料を以て製造をなす。比島産木材は實驗の結果マツチ軸木及同箱材料に適すと稱せらるれども、熱帯地方に於ては氣温の上下激烈なるより歐米式製法による時は甚だ危険なりとせられたり。依りてマツチ軸木及之の安全性竝に點火性に就きて種々工夫を廻らせらるにより始めて本問題は解決せられ年々産額を増加し行けり。所要用材はマニラ附近、ラグナ、ド・ベイ湖附近及ミンドロ島に多し。

比島マツチ産額の不足せるは年々多額に輸入しつゝあるによりて知り得べく一九一〇年輸入額は九〇〇、〇〇〇比、一九二〇年八七二、二八九比及一九二三年七六一、一一九比にして其大部

分は日本、支那、米國より來る。

ポタン。比島に於けるポタン製造業は尙ほ未だ發展の餘地あり。即ち材料の豊富なる製品に對する市場廣汎なるに徴するも明なり。現在工場二あり兩者共にマニラに存す。其主産地はミダナオ縣サムボアングにして多量に原料を得ると積出設備良く而も尙ほ斯業に必要な水力を得るの便なるにあり。サムボアング港はマニラ及他諸島に於けるが如く諸外國港と直接航路を有す。

獨り米國は年々眞珠貝四百萬比を輸入し其中日本よりは半ばを供給し比島よりは僅に五十萬比を積出するに過ぎず。

椰子。現今比島に於ける投資業の主要なるは乾燥椰子製造並に輸出業にして米國は此れに對する最大市場にて平均年額約五百萬比以上を輸入し居れり。

比島面積の<sup>五</sup>餘に過ぎざる錫蘭島は一九二〇年五八、一九一、三二六封度を輸出せり。然るに一九二三年比島に於ては僅に三工場を以て同年米國輸出額四、三四九、一五二疋（九、五六八、一三四封度）に過ぎず。比島に於ては錫蘭及他地方に於ける如く斯業振はざる理由無く殊に米國新關税法の下に外國より米國に入る乾燥椰子は一封當り三三仙を課税せらるゝに比島よりの輸入品に對しては無税なるによりても了知し得べし。

鳳梨。世界に於ける鳳梨罐詰製に對する需要は頗ぶる大にして殊に米國、支那、日本及歐洲に於て然り。年々米國は同品四百萬以上を消費す。比島に於ては大規模製造一場唯一に過ぎず。布哇諸島は此ものに對する最大資源地なれど實驗の結果布哇種子を比島に試みたるに原産地に於けるよりも風味良く大形果實を得たり。又罐詰に入る、際多量に砂糖を要せず加ふるに布哇産に比し酸分少量なりと稱せらる。而して布哇に於ては製糖業を略して發達の極に達し同地方に於ける地價は甘蔗栽培地として囑望され現在著しく高價を唱ふ。然れども未開原野多き比島に於ては安易に借地するを得又熟練労働者も容易に募集し得べし。

硝子。科學局の實驗報告に據れば比島材料を以て上等硝子瓶を製造し得るを證明しせり。然れども斯業未だ幼稚にして年々比島は重に日本より硝子瓶、皿類及其他硝子製品を輸入す。

製紙。比島製紙業の將來有望なるは製紙原料の産出多量なるによりて明なり。重要なる原料は Cana Tojo にして此ものは比島各地殊にマニラ灣附近バダゲン縣に多し。又 Cogan (Talahib) は馬來群島至る處に産出せられ、アバカ及マガイ不要物共に製紙原料に供せらる。其他椰子纖維屑、ニツバ椰子幹、Betel Nut 及ブリ棕櫚及 Bejoco 又 Tuman, Cuyang, 及他比島産木材等より製造せらる。

製紙工場として最も知らるゝはバタイン縣オラニ、マニラ及マスバラ等にして特にオラニ

は勞力、燃料豊富且つ積出港に近接せる好條件を有す。然るにマニラに於ては原料地に遠く同市に低廉なる労働者を求むること至難なり。

一九一八年二月施行法律第二七四二號は商務交通省長官に該法律實施向一箇年間に製紙及パンプ工場に投資せる個人又は會社に對し今後六箇年間毎年四パーセントを超えざる利益を保證せしむる權限を與へたり然るにも拘らず資本家は之れを利用せざりき。

香水。テレピンを産する植物に富む比島は科學局の實驗によれば尙ほ此の他優良なるターペンティン、樹脂(米國産に同様なり)を産出し得ることを證明せり。香水及香油を抽出し得る植物にイラン・イラン、金厚朴、香橙、レモン草、Vetiver、肉桂及生薑等あり。其大部分は非酒精性飲料及果實の風味剤に供せらる。又イラン・イラン油は食用に供せられざれど多量に産出し一九二三年同油一、九四〇疚、價額一一八、八八八比を輸出せり。

植物油。椰子油の他に植物油は Lumbang 蓖麻、Casoy 及カボックより得らる。Lumbang 若くは Candlemic Oil は重に填隙用(舟)、石鹼製造、塗料製造に、亞麻仁油の代用し、漆喰、椰子及オリブ油混用及提燈、洋傘、飛行機及輕氣球の防水用竝に抽出後に残れる精を肥料に供す。同油は其需要椰子に次ぎ年々凡そ五千乃至一萬ガロンを上下す。

又蓖麻子油(俗に Tangun-Tangun と稱す)は藥劑其他調理用に供せらるれども印刷及染色に用

ひらるゝを最も重要なものとす。又此ものは燈火用に供せられ毎年米國は十萬噸を購入す。比島には此他オリブ油の代用に供せらる、Casoy、C三及適當に處理せらるゝ時は良き香味を有するカボック油あり。

苛性曹達 此他比島に於ける工業として記述せらるべきものに苛性曹達製造業あり。此ものは製紙及バルブ、硝子及石鹼製造用に缺く可らざるものにして他の新工業を企劃する前に於て著手せられべきは實に苛性曹達なりとせらる。(完)

(遠東時報三月號)

英領北ボルネオ

英領北ボルネオ史 (三)

其後四十年間即ち東印度會社の撤去後同國は救濟せらるゝ事なく自然及人爲に破壊せらるゝ儘に放棄しありき。何となれば海賊の勢力些の反對にも出會する事なく狂へる風の如く次第に狂暴の度を増せり。

然し一概に海賊と云ふも馬來半島海賊 (Pirate) と少年時代に親しき英雄傳中に現はるゝ西班牙近海に出沒する海賊 (Buccaner) とは異なる。西班牙近海出沒海賊は馬來近海の其に比し海賊自身に取り危険率大なり。何となれば各國は其に壓迫を加へ、彼等獲物なき時は常に食料の缺乏といふ大問題に逢著し、又其根據地或は穩通地より掠奪品分散市場との距離大なる事あり。

馬來海賊の場合は然らず。即ち其實質をなす場所は絶えず特に工夫せられたる所にして、地利を利用し且歐洲諸國の反對なきに乘じ島嶼或は都合よき、距離の短き河の上流地方に干渉なしに其社會を形成し得たり。此の城砦より彼等は心傾かば出撃し土人商業を劫掠し或は平和なる土人村を襲ひ、彼等が殺戮せざる土人は拉致せられ奴隸となる。又歐洲船にても武裝悪しきか或は困難に出會せるものには遠慮なく襲撃を加ふ。例へば一七八八年四百五十噸の積荷を有せるカルカッタの「メー」號はブルネイに連行されたり。船長及上級船員は市に誘到されて食事中に慘殺され貨物は掠奪され船は焼かれ下級船員は奴隸として賣渡されたり。一八〇〇に於て「バグイン號」船長及其乗組員はスル王宮に於て謀殺され又一八〇三には「スツナ」號捕獲され一八〇六年に於ける「コムマース」號の陥りたる運命と同じく其乗組員は殺害されたり。又一方一八一〇年には「ハリヤ」號捕獲され其乗組員はカガヤン・スルに奴隸として拉致されたり。此等は總て完全に行はれたり。然るに歐洲各國政府は其國民に加へられし暴舉及英國旗に對する侮恥に對し報酬を強請せず。唯英國海軍部の海賊につき商人に與へし注意は「ブルネイに至るに河川に依るは危険なり」といふのみなり。此の注意は四十年間英國海圖に記入せられ居れり。海賊は其故凡そ捕縛せられず又其の所有船は長距離の航海に耐ゆるものなりしかば其奴隸及掠奪品販賣には些の不便をも感せざりき。又其上同所に在る馬來政府は勢力なく彼等に市場を

與へるより以上の方法を選む事能はざりしかば、總て正當なる商業は阻止せられたり。

北ボルネオ海岸及沿岸に群がる海上遊歴者の多くは最初スル諸島より來り一種の海賊的集團を形成せり。中最も著名なるはミンダナオより來りしイラヌン人なり。其船は船首尖り船梁廣く延長九十呎に及ぶものあり。其れに二並の櫓あつて奴隸によつて漕がる。最大なる船は三十或は四十人の戰士の外に百人餘の人を載せ得。戰士は上部甲板に居り緋或は鎖子鎧を纏ひて戰に出て其手には馬來クリス及槍を持ち或は兩手にて振り得る刀を握る。上甲板の下に船室あり。船室は船の大部分を占め又船首は六封度の彈丸に耐へ得る様堅固に造船せられあり。大砲には六封度より二十四封度迄の物ありて小なる砲眼長砲の砲口に付せらる。イラヌンは普通二十隻を一隊とするも大なるは二百位よりなる。其主たる目的は奴隸の捕獲にあり。彼等は其奴隸を捕縛し他地方にて賣渡す。彼等は其目的を達するためには其活動範圍をスル海に制限せず即ちニュー・ギニヤに至る東方スマトラに至る西方及其の途フィリッピン、ボルネオ、セレベス及爪哇及蘭貢ベルガル灣地方を巡洋す。之等イラヌン人はバンヤオ人と混合社會を形成する事あり。バジャオ人はチュアラン及テムバスク河數哩上流に住居するものにして同河川はバジャオ人に對し絶對の出入口なり。彼等は重に西班牙領海岸を襲ひたりき。

之等城砦より恐るべきはマルツ灣に於ける有名なるセリツプ・ウスマン（即ちアラビヤ人雜

種)なり。同人は結婚政策にてスル王宮と關係を付け不正なるな伯父ベンギラン・ウソツプと不正なる職業に加入せしめたり。彼は部下として一、五〇〇より二、〇〇〇人位の者を養ひ居るのみならずテムバスクのイラヌン人と同盟を締結し、自から親しく海賊指揮をなすに至れり。スル及ブルネイ宮殿に於ける其名聲は並なきものなりしかば彼は無鑑砲にも自分自身をブルネイ王位に押立てり。同所よりして彼は其手下を使用してマルツ及クダツ地方より土人家庭五千を拉致せり。同時にブルネイの無力を嘲弄し歐洲人の脅喝を笑へり。

然るに一八四五年に至り多數人は此海賊首長の信に反し多くの悪行をなせり。公海に於ける平和の貿易者は其船を捕獲され且分捕され「サルタナ」號乗組員二十名は奴隸に賣られ同號はバラツン海岸に於て焼却されたり。終に彼等はブルネイを襲撃したるためブルネイ王は英國と條約を締結し海賊壓迫を試めり。彼等は單に海賊的遠征をなせしに止まらずバラグニニに食料及軍需品を供給し、貨幣にして各百弗の價格ある奴隸五名を報酬として受けたり。此契約により如何に莫大なる利益を得たやは明瞭なる事實なり。

斯の如くセリツプ・ウスマン (Serip Usman) はブルネイに於て悪疾なりしのみならず彼はチュアランよりツンクに至る海岸及猶スルに至る海賊防備堡の完成さるゝ迄其東南海賊と攻守同盟

を締結せり。

ジュイムズブルック氏 (James Brooke) 一後に Sir を贈らる。一が英國政府に援助を乞ひしは北ボルネオ北岸より之等海賊根拠を勦滅する目的なりき。如何にして此偉大なる男子サー・ジェイムズがサラワツクの王となりしかといふ浪漫的物語は茲に繰返す迄もなくよく知られたる事實なり。一八四三年及一八四四年の二箇年に亘り英帝に汽船デドゥ (Dido) 號船長ハリー・ケッペル卿の助力を得て彼は當時アラビヤ混血人セリツプに統御され長年間商業及農業に脅威を與へしシー・ダイヤツクの勢力下にありしサラワツクを自由にせり。彼は次で眼を北岸海賊に轉せり。今日に於ても北ボルネオにては、北岸海賊のみならずサラワツク地方の其れに對し不撓不屈且忍耐とを以て英國の振起を促したるはブルック王にしてブルック王以外の人ならず云ふ事實を認めたるものなきが如し。彼の記せる所に依れば「我々商業を海上に特にボルネオ北西岸に發達せしめんには第一に海賊の勦滅第二に貧民及生産者階級保護のため安定せる土人政府の確立及第三に内部事情に通曉し且各種族との交通を頻繁に行ふを必要とす」と。

第二項及第三項を成就するためには先づ第一に第一項を履行するを必要とす。一八四五年の初に當り王の意志は實現せられんとせり。即ち彼はグイクトリヤ女王によりボルネオ密使 (Confidential Agent) に任命され海賊鎮壓に必要な援助をブルネーに與へんといふ教書を持參し

ブルネーに赴く様に命せられたり。其のブルネーに到達四日後セリツプ・ウスマンが其城壁を嚴重に防禦し若し英國が彼を襲撃する意志なきときは彼は王が英國に傾きたる報復としてブルネーを撃攻するとの報達せり。

然るに八月になり王の繰返へされたる請願に基き海軍少將 Sir Thomas Cadlange 其艦隊を引連れブルネー市に來りしためセリツプ・ウスマンは其遠征をなすの苦痛をまぬかれたり。同艦隊は旗艦 Agincourt 及 Vestal Daedalus 蒸汽單桅帆船 Vixen 二檣帆裝船 Cruiser 及 Wolverine 及東印度會社蒸汽船 Pinto 及 Nemesis 等より成れり。第一に會見すべき人物は奴隸賣買をなせる前逃ベンギラン・ウソツプにて、同人は二名の英國臣民 (印度土人) の留置監禁につき答申すべかりき。然るに提督の目前に表はるゝを拒みたれば Vixen 號より其家屋に對し一撃を加へたり。其の爲め其建物は微塵に破碎され彼は叢林中に遁走せり。

此頑強なるウスマンを處理せし後艦隊は最も頑強なる豫言者後繼を處理するためにマルツに向ひ八月十六日灣口に到達せり。十八日に至り Vixen, Nemesis, Pinto 及ボートは灣内に進み出來得るだけマルツ河口に近けり。其日の午後四十六名の海軍士官水兵三百三名の下士官及水兵及百九十七名の下士を搭載せる二十四隻のボート本船を去り砂州内のマンゴロー沼澤に碇泊せり。



八月十九日は有名なるマルヅ戦ありし日なり。少量のビスケット及水といふ軽い食事をなせし後、略に攻撃隊は二人のサラワツク馬來人により道導され、サラワツク馬來人は同地方事情に精通せしものなり。二隊に分れランチ及大砲を積載せる軍用浮船の教道を受けつゝ、上流に逆行せり。同河は非常に迂曲しマングロブ繁茂せるため河岸の眺望を防げたるものなり。彼等が其目的地に達したるとき同隊の指揮官 Captain Charles Talbot は Captain Lyder を伴ひ偵察に出懸けたり。約三哩進みたる後、彼は河の急角度に廻旋せる所に來れり。同所は敵狀を偵察するに格好なる位置にありき。

此偵察を終へて後 Captain Talbot は本隊に加はれり。直に砲船出動の命令は發せられ殘餘は命令一下出動の準備を整へたり。午前十時頃なり。攻撃隊敵前に押寄て來るや一隻の小船休戦旗を擧げ來るあり。休戦旗は一名の勇者により持たれしものにして、彼はイラマンの衣服を纏ひ羽毛の飾ある頭布を被れり。彼は確にセリツプ・ウスマンの親族にして歐洲人來訪の目的を尋ねに來りしものなり。Captain Talbot 氏は其れが時間を得んとする敵の計略なりとし、言葉を交す必要な故、若し Ship Usman 半時間以内に同處に來らざれば砲火を放つべくとせり。旗は最後の通謀と共に堡に送られたるにまた先の者、セリツプと通商をせんために二隻のボートとをつれ提督の來ることを許容すといふ命を帯びて歸れり。此の提議が拒否さるゝや否や敵は再

び旗の歸り來れること即ち申出の拒否せられたるを見て砲火を浴せかけたり。

戦は開始せられたるも海賊方一敗血にまみれ堡壘の後なる村に逃げたり。後翌日に至りブルツク氏は其の跡の剿滅を行ひたる所セリツプ・ウスマンの罪狀の數々明に、表はれ其藏品は市場をなすに充分なりき。

之の海賊巢窟はランコン農園の下マルヅ河岸に今に至るも發見せらるゝ所なり。(未完)

□バナナ主要産地より英國への輸入表 (数量單位 價額單位 磅)

仕出地	一九一三年	一九一九年	一九二〇年	一九二一年	一九二二年
キヤネリー諸島	三三八〇〇	一八七、五五〇	三三三、八〇〇	二六六、〇〇〇	二六四、四四〇
ホンテユラス共和国				五、六〇〇	二、八五四三
コスタリカ	二六四、八八〇	—	一六八、五九〇	一四九、九八八	一三八、〇五九
コロムビア	三、五五五	三、五五五	三、七四四	三、九五七	四、〇六六
其他の外國	三、〇〇〇	五三	三、三	五、四九九	四、〇六六
外國合計	七、四〇三	二、七二五	五、〇七二	八、二六九	九、三六一
英領西印度(主としてジャマイカ)	四九、六三三	二七、八八四	三二、〇四八	二、四六八	一、八四九
果計	七、五九六	二、七二五	五、〇七二	八、二六九	九、三六一
總價額	二、七三、三〇八	三、九八、三三三	六、四八、七二九	六、五五、〇三六	五、三三、二〇九